令和８年度病害虫発生情報　第１号

令　和　８　年　９　月　４　日

千葉県農林総合研究センター長

チャバネアオカメムシ越冬後成虫の発生量予測について

１　害 虫 名：チャバネアオカメムシ

２　対象作物：ビワ

３　対象地域：南房総地域

４　予測の詳細及び留意事項

（１）果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）の越冬後成虫による果実被害は、５月下旬から６月にかけて収穫時期となるビワで問題となる。

（２）果樹カメムシ類は発生量の年次変動が激しく、多発生年には甚大な被害を及ぼすため、翌年の発生量を前年のうちに把握して、二重果実袋※１の選択やドローン※２等を利用した薬剤散布の準備に活かすことが重要である。

（３）最優占種であるチャバネアオカメムシについて、本種の早期発生予測モデル※３を用いて、2027年４～７月の南房総地域におけるフェロモントラップへの誘殺数を予測した結果、来年の発生量は中程度※４と見込まれる（図）。

（４）本モデルによる予測値は南房総地域全体の平均値であり、チャバネアオカメムシの発生量は、各ほ場で異なる。

（５）例年発生が多いほ場では、予測結果に関わらず果実被害防止に向けた対策が必要である。

※１　慣行の果実袋（一重）の内側にパラフィン紙製の層を挿入した二重構造で、慣行の果実袋と比べてカメムシ類が口針を貫通させにくい構造になっている。

※２　ドローンを利用した防除は、慣行防除を行った場合と同程度の売上が確保でき、防除効果も慣行防除と同等以上である。詳細については、以下の令和７年度試験研究成果普及情報を参照する。

「ビワ圃場におけるドローンを用いた果樹カメムシ類防除の作業性及び経済性」
（https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/shikenkenkyuu/documents/r7n33.pdf）

「ビワを加害する果樹カメムシ類に対するドローンによる薬剤散布の防除効果」
（https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/shikenkenkyuu/documents/r7n49.pdf）

※３　本モデルは、南房総地域の当年度のスギ雄花生産量及び集合フェロモントラップへの越冬世代成虫誘殺数を用いて次年度の越冬成虫誘殺数を予測する式で、千葉県農林総合研究センターが開発した。（詳細はhttps://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/shikenkenkyuu/documents/h27_38-2.pdfを参照）。

※４　越冬成虫誘殺数が100頭未満である年を少発生、100以上1,000頭未満である年を中発生、1,000頭以上である年を多発生としている。

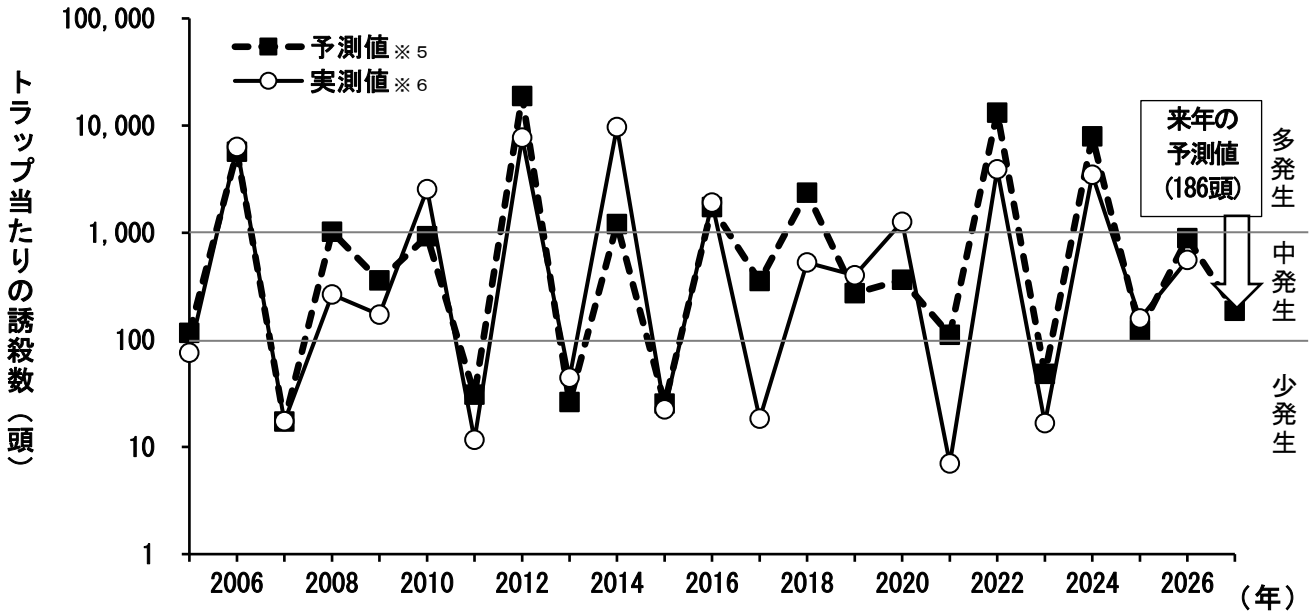


図　南房総地域におけるチャバネアオカメムシ越冬成虫の集合フェロモントラップへの誘殺数実測値の年次変動及び早期発生予測モデルの予測値

※５　新たなデータを元に毎年更新される予測モデルによる予測値

※６　南房総地域３か所に設置した集合フェロモントラップにおける毎年４～７月のトラップ当たり合計誘殺数

・病害虫発生予察情報は、インターネットでもご覧いただけます。
https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/
・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
https://pesticide.maff.go.jp/

問合せ先
千葉県農林総合研究センター病害虫防除課
〒266-0014　千葉市緑区大金沢町 180 番地 1
TEL 043(291)6077　FAX 043(226)9107
E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp